

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700354
法人名	(株)プロデュース
事業所名	グループホームきらめき上の原 (ユニット名 流星・太陽)
所在地	福岡県北九州市八幡西区上の原2丁目17-11
自己評価作成日	令和3年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るいあいさつ元気な会社」と経営理念を掲げ、私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと、こころと心をつなぎ地域に貢献します。地域と一体となり認知症の方が安心して生活できる環境づくりに力を入れています。介護の質、人間力向上のため社内でそれぞれの立場にあった勉強会を多く取り入れています。また職員全員が家族や地域と共に会社でも家庭においても笑顔をたくさん繋げていくことを目指しています。子育て中のスタッフへの勤務時間の工夫や子供を連れて出勤できる環境を整え、子育て支援を推進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は大通りから入った住宅街の中にあり、今年で開設から9年目になる。直ぐ近くには地域の夏祭りや行事、花見が開催される馴染み深い公園がある。法人理念の「明るいあいさつ元気な会社」を基本に、事業所の職員全員で出し合ったキーワードを組み合わせて作った「小さな気配りで大きな感動。明るい笑顔で優しい介護。」を事業所独自の理念とし日々のケアに努めている。勤務年数が長い職員が多く、職員同士の仲が良い。一人で留守番が出来ない小さな子供を連れて勤務している職員もいる。チームとして協力しながら優しい対応で介護に取り組んでいる家庭的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「明るい挨拶 元気な会社」私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと・こころと心をつなぎ地域に貢献します。	各ユニットの入り口に理念を掲げ職員は何時でも確認できるようになっている。地域住民との交流が深く、協力を得ながら明るく優しい介護に努めている。理念にそぐ合わない場面があるときは、職員同士で注意出来る関係にある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の夏祭り、運動会、敬老会などに参加させて貰っている。 今年度は新型コロナウイルスの影響で行事は全て中止。	町内会、自治会に加入して公民館開催のイベントに利用者と共に参加し、また事業所での行事に参加を呼びかけ交流を実践していた。今年度はコロナウイルス感染予防のため交流困難な状態だが、今後も交流を継続していく予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「きらめきだより」を発効ご家族様へ送付。地域の方々にも見て頂き、情報発信しながら支援理解してもらえ工夫を心がけている。 今期は新型コロナウイルス感染予防のため書面発送へ変更。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、書面開催を行っています。ご家族や地域からの意見をいただくよう努めております。	今年度はコロナウイルス感染予防のため2ヶ月に1回、書面で現状説明とヒヤリハットの報告を行っている。自治会長、町内会長、民生児童員、ふれあいネットワーク、福祉協議会、公民館長、行政等の関係者、家族全員へ書面を交付し意見を求めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に必ず包括支援センターの方に 参加して頂き助言指導をして頂いている。 今年度は新型コロナウイルス感染予防のため書面による開催に変更。	運営推進会議で意見を求め、一人暮らしの方へのアプローチや連絡の仕方の指導を受けたり、運営に関するアドバイスを頂いている。防災や認知症の勉強会など、地域の方を含めて出来る方法などの助言を頂いたこともある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夕方19時まで開放している。運営会議等で拘束について話し合い周知している。ちょっとした声掛けが行動や意欲を制止していることもあるので、入居者様の思いを知り寄り添う介護を目指している。必要な時は家族と話し合いを持つようにしている。	身体拘束についての研修は採用時に必ず行っている。管理者が外部研修に参加した際には伝達研修を行い職員全員の周知に努めている。職員も個人で研修に参加し身体拘束をしないケアに真摯に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との会話の中でスタッフ同士お互いに注意し合い言葉による虐待(近い言葉)が無い様指導している。入浴時や起床・入床の更衣介助時に皮膚の観察を行い皮下出血などある時は記録に残している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を立てている方が入居されている。入居時に日常生活自立支援事業や成年後見制度の説明を行っている。ユニット入り口にパンフレットを設置している。	現在数名の方が制度を利用している。入居後、必要と思われた方に対して管理者が本人や家族に制度について説明を行っている。制度を利用している事例がある中で、職員はおおよその理解はあるが、勉強会の実施に至っていない。	利用者の財産、生活を守るために重要な制度である。管理者、職員共に権利擁護に関する制度についての研修、勉強会に参加し学ぶ機会が持てるよう期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明を行い理解、納得してから契約を行っている。センター方式をとるようして過去の生活状況を充分聞き取り意見要望を聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年に一度アンケートを実施して意見をいただく機会を設けている。	家族から差し入れの希望や週1回の面会時にタンスの整理をしながら会話の時間を持たせたいと希望があり対応した事例がある。現在、コロナウイルス感染予防のため面会の制限がある。家族の要望によりオンラインでの面会実施、予約制で交流スペースでの面会を実施している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社長、管理者との面談がある。提案や改善の必要性があれば改善している。	職員と管理者は相談しやすい関係が出来ている。利用者の状態変化に伴い、使用されている車いすのタイプを変更したいと提案し利用者の安全、介護負担軽減を図ることが出来た事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員に対して感謝の言葉を述べ、不安な事や意見を吸い上げやすい環境づくりを心掛けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	19歳から76歳までの職員がおり個々の能力を発揮、お互いが理解してチームワークを大切に取り組んでいる。職員同士の良い所に着目し個人の強みを伸ばしながら勤務できる様に協力し合っている。	法人代表、管理者には何でも相談出来る関係が出来ている。異動時も相談があり本人の意向に沿って決定された事例がある。有給休暇、休憩時間も確保されており、得意分野で能力を発揮し働きやすい環境のもと生き活きと勤務することが出来ている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	物事の原理原則を知る事で可能思考で物事を捉えられる力をつける研修を取り入れ、他事業所との交流を持つ研修も実施し、「笑顔になる人間関係を築く」ことに取り組むことで人権尊重を心がけている。	職員数名ずつ、法人代表から人権についての研修を受講した。心のケアが必要な職員も勤務していたことがあり、利用者に対しても職員間でも人権について考える事が出来ていたが、定期的な研修実施には至っていない。	定期的に事業所内外での研修や勉強会に参加し人権教育、啓発活動に取り組めるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	社外研修で学んだ事をアウトプットし、社内 でも勉強会を自主的に行い学ぶ組織となっ ている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	徘徊ネットワーク会員、GH経営者や管理者 と情報共有している。代表はNPO法人の理 事を行っており、同業者との研修や交流の 場を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っていること、不安 や要望を聴き安心して頂けるように、努めて いる。センター方式の活用が信頼関係に結 びついている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っていること、不安や要 望を聴き安心して頂けるように、努めている。セン ター方式の活用。初期段階では、本人、ご家族と のコミュニケーションを多く持ち安心して頂けるよ うに心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人、ご家族の困っていること、 不安や要望を聴き安心して頂けるように、努 めている。センター方式から、生まれ育って 生きてきた背景をもとにケアするようにして いる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者様から沢山の事を学びお互いに支 え合っている関係。本人の出来ることを日々気づき協力 して頂いている。感謝の気持ちを伝え出来た事は喜び を共に感じ自信を持てるように支援している。喜び、悲 しみ、怒りを共に分かち合いながら、信頼関係を築いて いけるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	近況報告、相談を行い、よりよいケアが出来るよう信頼 関係を築いている。毎月家族通信を送っている。ご家族 様が来られた時は、ご家族様だけで過ごして頂ける様 にしている。今期は新型コロナウイルスの影響で面会の 制限中は、リモート面会の実施を行い繋がりを大切にし ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域交流室や自室で家族様とゆっくり過ごせるように支援行っている。	鉄道の仕事をしていた利用者の希望で線路を見に行ったり、電車で門司港まで行ったことがある。以前住んでいた家の前を通ったり、馴染みの美容室に行かれる方も居られる。年賀状のやり取りや近隣の友人の訪問があるなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にソファに座られ、そっと手を握りスキップをとっている光景をみかける。 廊下を肩を並べて歩いている光景あり。 お互いの居室を行き来し仲良く話されたりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからもご家族様と連絡を取り合い、ご本人様の状態をお聴きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本位の暮らし方が出来るよう希望、意向は必ずお聴きしている。 意思の疎通が出来ない方には、ご家族様に情報を頂き、望まれるであろう生活に近づけている。	系列事業所からの情報や日々の関わりの中で、利用者の発した言葉や様子、職員の気づき等を記録し、思いや意向を把握している。申し送りや会議等で職員間でも共有し、職員は利用者に関わりながら、言葉にできない思いをくみ取るように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族様に生活暦を記入して頂き情報を収集している。センター方式活用。 入居後もご家族様、ご本人様からお聴きする情報もあるので、スタッフで共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状況を観察し把握し自由で快適に過ごせるよう努めている。 毎月のカンファレンスで現状の把握を行い、今後の支援を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に変わりのない方は3ヶ月に一度カンファレンスを行い計画に反映している。ケアプラン実施評価表に短期目標の項目を掲げ毎日チェックを行っている。モニタリングの記入は3ヶ月毎に行い、項目ごとに評価を行っている。	職員は1～3名の利用者を担当している。日々の関わりの中で、利用者・家族の思いや意向を把握し、医療関係者からの情報も得て、会議等で職員間による検討を行い、利用者視点に立ったプランを作成している。利用者の状況により随時見直しを行い、計画を作成するなど現状に即したものとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族様へ変化は書面や電話で報告し、相談の後計画に反映させケアを行っている。ご家族にいつでも記録を見て頂くよう声かけしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のご家族の状況やご本人の状況に合わせサービスを行っている。 外出の希望のある利用者様には、買い物などにお連れし少しでも外出の機会を作るよう努力している。ご本人の希望に添える支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が住宅地のため、散歩の途中に近所の方から声をかけて頂いている。 地域からご入居された入居者様は、ご近所の方が面会に来てくださり安心して生活が送れる支援をしてくださっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により各週往診に来て頂き健康チェックできている。 必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示、協力を受けている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、職員が家族と共に受診に同行したり、代行する場合もある。かかりつけ医や歯科、訪問看護の定期往診や訪問があり、受診結果は家族、職員とも共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2日、訪問看護師の訪問を受けている。変化のある方は申し送りを徹底し支援している。一階の小規模多機能ホームに看護師がいるため、緊急時は協力して頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでの生活情報を提供し、病状が安定したら早期退院をお願いしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師と密に情報交換し、状態変化が有るときは、その都度意向を確認し、満足して頂ける終末期を迎えられる様支援している。	今迄に看取りの経験がある。医師は往診時に利用者の状況を確認し、その都度、家族や職員、看護師を交えながら説明や話し合いをしている。また、家族が病院に向く場合もある。職員は、終末期におけるケア場面での対応を、訪問看護師から所内会議の場で学ぶ機会があり、訪問の時も相談できている。希望があれば家族の宿泊や食事等の提供も可能である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。 AEDを設置後消防士を呼んで救命救急の講義を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯の火災を想定し避難訓練を行い、消火器の使用方法和利用者様の避難誘導も行っている。火災時の自動通報装置を設置している。 地震・水害に対しては、備蓄できるものは、準備している。	運営推進会議の中に防災訓練を組み込んでおり、参加者を含め20名程度の参加がある。コロナ禍の昨月下旬に、業者による消防用設備点検を実施し、書類を消防署に提出している。当日は系列事業所と合同で利用者・職員で避難訓練等を実施している。マニュアルも作成され、各ユニットのスタッフルームに掲示しており、備蓄品は概ね3日程度の準備がある。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけをしている。 赤ちゃん言葉や上からの命令形な言葉は絶対に使わないように指導している。	職員は言葉の内容や声のトーン等に配慮したり、おむつやパット類も他の利用者の目に触れないように工夫しながらケアに当たっている。明らかに不在である場合以外、入室時にはノックをしている。記録物はスタッフルームの鍵付きキャビネットに保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の行動などでシグナルを見落とさないよう努めている。 おやつ時の飲み物や行事の参加や外出も自己決定できるよう声掛けしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方、廊下ソファでおしゃべりしたい方など個々のその時の状態に合わせて一人ひとりのペースを大事にして、その人らしい暮らしを大切に支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて行っている。外出時などは、一緒に着るものを選び決めている。 2, 3ヶ月に1回訪問美容師に来て頂きカットをされる支援をしている。希望によってパーマやカラーも行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のその時の状況に合わせて、出来ることを共に行っている。利用者様と共に配膳や食器洗い、お盆拭き等を一緒に楽しく行っている。出来る方は調理を一緒に行っている。	朝食以外は配食サービスを利用し、手作りの品を加えたり、月に数度は利用者の好みに配慮した手作り食を提供している。行事食や外での弁当を楽しんだり、近隣からの頂き物や敷地内で採れた野菜等が食卓に上ることもある。食事形態や、食事時間も個別に対応し、コロナ感染予防の為、食に関する以外の食器を洗ったり、テーブルを拭く等に利用者は持てる力を活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。 個々に合わせて食事量を決めて、バランス良く摂取される様に支援行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 困難なご利用者はスタッフが介助にて行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう援助している。 歩行困難なご利用者には、声かけ誘導にて介助行っている。	排泄パターンを把握し、トイレに事前誘導することで布パンツとパット併用から布パンツのみになった事例がある。また、利用者の出すサインを見逃さずトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動と毎朝のパナナ入りヨーグルト等工夫し、自然排便が出来るよう援助している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴して頂いている。 臨機応変で希望のある時は対応している。	毎日入浴は可能であり、週2回程度入浴している。自立している利用者が夜間での入浴を希望する場合があります、時々見守りをしている。入浴を拒まれる場合には無理強いせず、対応する職員を替えたり、時間を変更したり、清拭を行ったりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や状態を把握し対応している。病状や年齢、習慣によって日中でもゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。 新しく処方がある時は必ず申し送っている。薬局と連携し、一人ひとりの薬の管理を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の協力もあるが、ご本人の嗜好も考慮し支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、ご本人の希望に合わせて外出などを行っている。	以前は、車椅子の利用者と一緒に近くを散歩したり、コスモス見学や公園に出掛けたりしてが、現在はできていない。コロナ禍においては、職員の勤務状況等により玄関先や敷地内の畑へ出るなど、外気に触れる機会が減っている。	外気に触れることで得られる五感の刺激は、気分転換やストレス軽減につながるので、コロナ禍における外出について、今一度検討する機会を持つことを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望で、お金を持っている方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望があれば、いつでも電話できる体制はある。携帯電話を所持し、好きな時間に電話などされている方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング等に季節を感じられるように花や飾りを工夫し取り入れている。窓から庭園、畑が望める。ユニット内に季節に応じた飾り付けを行っている。	居間にはゆったりとしたソファが配置され、適度に明るく利用者は寛いで過ごしている。換気や温度、湿度等にも配慮され、掃除専門の職員や他の職員により、室内は清潔が保たれており、利用者は居心地よく過ごせている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、自由に過ごせる空間がある。気の合った入居者様同士、一緒に座られ話をされる事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒や壁掛け、写真等を持って来られご本人が心地よく過ごせるよう努めている。また家族（子供・孫・夫婦）との思い出の写真等を飾っている方もいる。	居室にはベットや洗面台等が備え付けられ、家族の手作り作品や写真等が飾られている。タンスや椅子、テレビや仏壇等馴染みの物や好みのものは、利用者が過ごしやすく配置されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。リスクはあるが、出来る事の発見やそっと見守る事で出来るように支援している。下膳や食器洗い、掃除機かけ、洗濯物干し・たたみ等。		